

2024 年 2 月 28 日

2023 年度聖路加国際大学大学院
看護学研究科修士論文

全身麻酔下で手術を受ける子どもに対するプレパレーション絵本の
内容妥当性と実現可能性

Content Validity and Feasibility of Preparation Picture Books
for Children Undergoing Surgery under General Anesthesia

21MN307

齋藤広野

【目的】本研究の目的は、親子の対話ができる親子主体型で、親子が好きな時に使用することができる、全身麻酔下での手術に共通した内容のプレパレーションツールとして作成した絵本の内容妥当性・実現可能性を医療者の視点から明らかにすることである。

【方法】Web の自記式質問紙調査および、インタビュー調査を用いてプレパレーションツールである絵本の評価を行う横断研究とした。対象は、(1)小児外科医として1年以上外科手術に携わった経験のある医師(2)小児麻酔を1年以上経験したことのある麻酔科医(3)看護師経験3年目以上であり、手術室で小児外科患者の麻酔導入に携わったことのある看護師(4)看護師経験3年目以上であり、小児病棟での経験が1年以上で、手術を受ける小児患者を受け持った経験がある看護師とし、Web 上での質問紙調査と Web もしくは対面での半構造化インタビューによりデータ収集を行った。データ分析は、項目レベルの内容妥当性指数で評価し、質問紙の自由記載を改善点、良い点に分類した。さらに、インタビュー調査は逐語録の語りからコードを作成し、カテゴリ、サブカテゴリに分類した。なお、本研究は聖路加国際大学研究倫理審査委員会での承認(承認番号:23-A015)を得て実施した。

【結果】研究協力病院より、質問紙調査にて有効回答を得られた46名を分析対象とし、その中で、インタビュー調査への参加同意が得られた5名にインタビューを行った。絵本の内容妥当性指数 I-CVI は、23 項目中 23 項目で基準の期待水準(0.78)を上回った。S-CVI/Ave の値は、6 項目中 5 項目が基準の期待水準(0.90)を上回った。しかし、絵本 1 ページ目の S-CVI/Ave の値は、0.88 と基準の期待水準を下回った。質問紙調査の絵本の改善点として、【絵】【説明の文字数】【絵本の流れと情報】【対象年齢・発達段階】【必要性】【使用方法】に分類され、絵本の良い点として、【子どもの認知】【手術に対する準備】【絵】に分類された。インタビュー調査では、【絵本の効果】のカテゴリに対し、[手術を受けることを知ることができる][見慣れないものへの恐怖の軽減][子どもと保護者との関わり][手術前からの情報提供][医療者の介入]のサブカテゴリで構成され、【絵本の実用可能性】のカテゴリに対し、[施設の現状][絵本を使用するための体制][発達段階と絵本の内容][現場との相違][絵本の内容の過不足][子どもの理解に対する不確定さ][子どもとの関わり方][説明ツールの検討]のサブカテゴリで構成された。

【結論】本研究で作成した絵本は臨床で使用できると言えるが、絵本を使用するためには、施設毎に使用方法を検討することや、保護者への説明を行うことが必要であることが示唆された。また、絵本を子どもとのコミュニケーションツールとして活用が可能と言える。今後は、子どもへの使用を検討し、介入研究が必要と考える。